

経済・金融 フラッシュ

最近の人民元と今後の展開 (2013年11月号)

経済研究部 上席研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

- 10月の人民元は、基準値が米国ドルに対してほぼ横ばいに留まる一方、現物実勢は中国成長率の上ぶれや米国財政協議の混乱を背景に堅調に推移した。世界通貨を見渡すと、堅調に推移した新興国通貨が多かったため、人民元の上昇は特に目立つ存在ではなかった。
- 今月の人民元（現物実勢）は、米国の長期金利が上昇しにくい一方、景気が好転しCPIが3%を超えた中国の長期金利は下がりやすいことから、堅調な展開を予想する。また、9-11日に開催される中国共産党の第18期3中全会は、元高方向での波乱材料となりやすい。

【前月の動き】

10月の人民元は、基準値が米国ドルに対してほぼ横ばいに留まる一方、現物実勢は堅調に推移した。基準値は11日に当月安値となる1米国ドル=6.1458元を付けた後、23日には当月高値となる同6.1330元を付けたものの、その後は弱含みの展開となり、10月末は9月末より僅かに元高・ドル安な同6.1425円で終えた。一方、許容変動幅（基準値±1%）の範囲で市場メカニズムにより動く現物実勢は、中国の7-9月期の経済成長率が市場予想を上回ったことや米国財政協議の混乱を背景に2005年7月の人民元切り上げ開始以降の最高値を相次ぎ更新、10月末は9月末より0.4%元高・ドル安となる同6.0950元（スポット・オファー、中国外国為替貿易センター）で終えた（図表-1）。その結果、基準値と現物実勢の乖離は9月末の0.4%から10月末には0.8%まで拡大、再び許容変動幅の上限に近づくこととなった（図表-2）。

（図表-1）

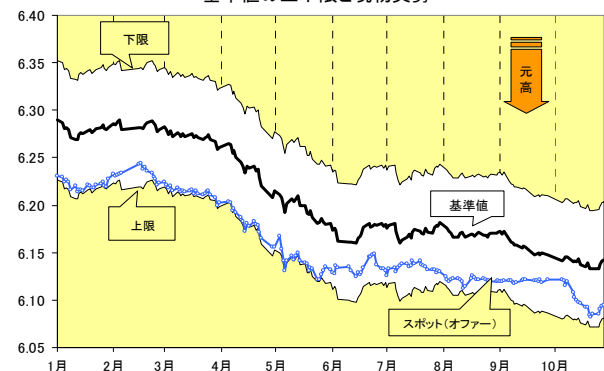
○人民元相場（対米国ドル）

	基準値			現物実勢		
	前日比 (注)	備考	備考	オファー	ビッド (注)	備考
			05年7月以降			05年7月以降
9月末	6.1480	-	-	6.1218	6.1212	-
10月8日	6.1415	▲0.0065	最高値	6.1213	6.1210 (当月安値)	
10月9日	6.1430	▲0.0015		6.1207	6.1205	
10月10日	6.1452	0.0022		6.1159	6.1156	
10月11日	6.1458	0.0006 (当月安値)		6.1200	6.1194	
10月14日	6.1406	▲0.0052	最高値	6.1084	6.1079	最高値
10月15日	6.1412	▲0.0006		6.1027	6.1026	最高値
10月16日	6.1408	▲0.0004		6.1001	6.0995	最高値
10月17日	6.1431	▲0.0023		6.0982	6.0977	最高値
10月18日	6.1372	▲0.0059	最高値	6.0970	6.0968	最高値
10月21日	6.1352	▲0.0020	最高値	6.0928	6.0924	最高値
10月22日	6.1395	▲0.0043		6.0928	6.0925	最高値
10月23日	6.1330	▲0.0065 (当月高値)	最高値	6.0839	6.0835	最高値
10月24日	6.1335	▲0.0005		6.0819	6.0813 (当月高値)	最高値
10月25日	6.1333	▲0.0002		6.0850	6.0838	
10月28日	6.1336	▲0.0003		6.0854	6.0850	
10月29日	6.1373	▲0.0037		6.0905	6.0902	
10月30日	6.1412	▲0.0039		6.0940	6.0935	
10月31日	6.1425	▲0.0013		6.0950	6.0945	

(資料)CEIC(中国外国為替貿易センター)

（図表-2）

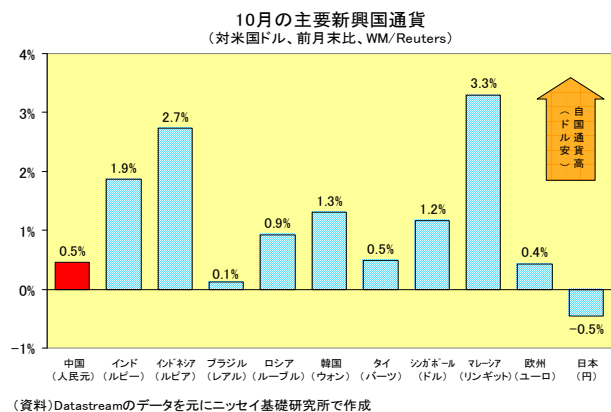
基準値の上下限と現物実勢



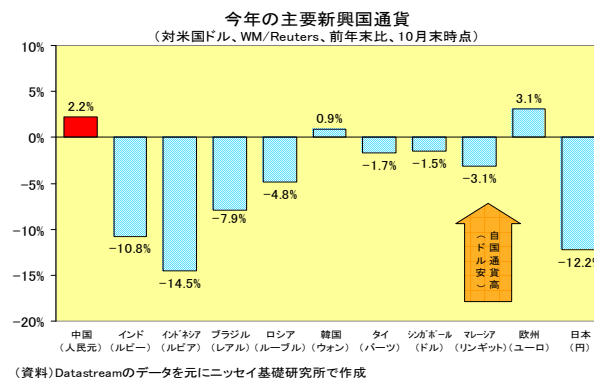
(資料)CEIC(中国外国為替貿易センター)のデータを元にニッセイ基礎研究所で作成
(注)上下限は(基準値±1.0%)

一方、世界通貨の動きを見ると、米国財政協議の混乱を受けてQE3縮小が遠退くとの見通しが強まり、新興国通貨を買戻す動きが継続、マレーシアリンギットが前月末比3.3%上昇、インドネシアルピアが同2.7%上昇するなど堅調に推移、人民元の上昇は目立たなかった（図表-3）。但し、前年末比で見ると依然として大幅安な新興国通貨が多いことから、人民元は相対的には堅調といえる（図表-4）。

(図表-3)



(図表-4)

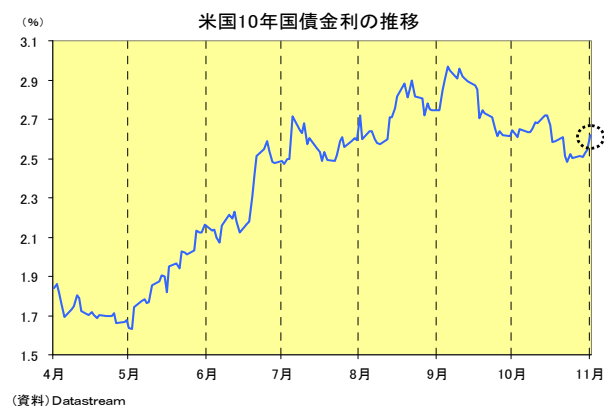


[今後の展開]

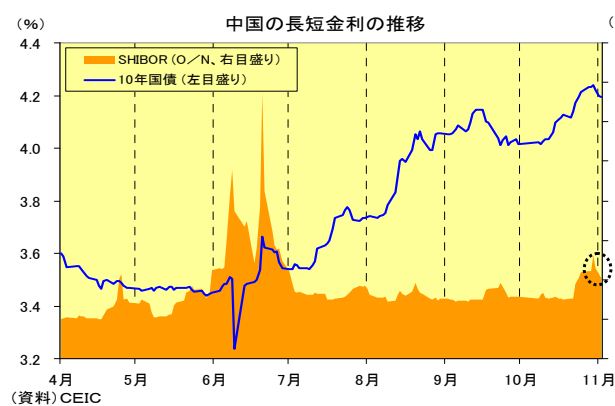
さて、今月は9-11日に中国共産党の第18期3中全会が開催される。この会議では人民元改革に前向きな姿勢が示されると見られることから人民元(現物実勢)は上値を試す可能性がある。但し、人民元が急上昇した場合には、漸進的な改革を好む中国当局はそれを阻止すると見ている。

また、米中の経済状況を見ると、米国で1日に発表されたISM製造業景気指数(10月)は市場予想に反して上昇した(図表-5)。但し、財政協議混迷に伴う政府関係機関封鎖などの影響で当面は冴えない景気指標が多くなると見られることから、長期金利の大幅上昇は見込みにくい。一方、中国では成長率の上ぶれとともにCPIも3%台に乗せた。ここもとの短期金利上昇には歯止めがかかってきたものの、金融引き締め観測は完全払拭できておらず、長期金利は高止まりしやすい(図表-6)。従って、米中長期金利差は高位で推移し人民元(現物実勢)は堅調と予想している。

(図表-5)



(図表-6)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。